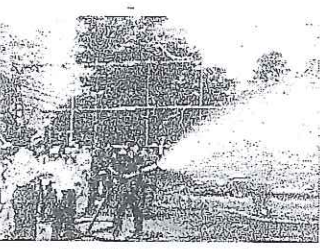




細田安治

18



貯水槽からの放水訓練

いただいた。この件につき、商工中金様の中小企業団体に對する御厚意には新木場を代表して心から感謝を申し上げます。彼は長時間の通勤に耐え組合員のわがままを聞き、サポーターなしの一人体制で頑張っている組合のエースだ。◇ここでの教訓 何事も諦めず粘り強く活動すればことは成就する。

新木場便り発行

06年(同18年)には、広報委員会を新設し、委員の皆様のご協力を得て「新木場商工便り」を発行し新木場内の実情、組合の活動状況など情報発信を行った。

新木場駅のケヤキの看板が腐っている

新木場駅のケヤキの看板が腐っている。木の街新木場のイメージダウンになるので修理を必要とし、腐れ部分を取り除き、岸本彫刻さんで彫り直し、赤銅の屋根をかけた。メンテしやすくするため、手が届く高さに設置した。

◇ここでの教訓 情報発信は団結の第一歩。

理事長退任し相談役に

07年(同19年)度の総会を経て08年(同20年)5月に相談役に退いた。振り返れば1988年(昭和63年)に理事に就任以来21年間、皆様のご協力により曲がりなりに勤め上げることができた。御協力頂いた関係の皆様には深甚なる感謝を申し上げます。

現在の私は理事相談役として

広報委員、東京湾岸警察署交通安全協会副会長である。相談役の役割は自ら発言せず相談されればその範囲にごとめ、出しゃばらずお手伝いをさせていたたく所存です。

◇ここでの心境 口出さず出しゃばらずのお手伝い。

11次回は5月7日付(細田木材工業協会会長)

り扱いについての説明を受けました。防災訓練と同様の扱いにしてもらった。この訓練も好評であった。

◇ここでの教訓 応急手当はスピードが勝負。

初期の消火活動も大事だが、緊急車両の到着が半時間かかるの間は間に合わぬ。新木場は可燃物の集積所である。しかも工業専用地域として、災害の発生が予想される地域だ。

新木場に消防署を

城東消防署からは署長が激励に訪れ、予防課長、警防課長や担当の砂町出張所長などのほか自衛消防団からも応援があり大規模な訓練となった。

◇ここでの教訓 人を動かすには大義名分が必要だ。

救急訓練

城東消防署から救急車がサイレンを鳴らし、信号を無視し突っ走ってきた。新木場入り口まで12分かかると言われている。東の築地までは約半時間かかってしまう。助かるはずのけが人も助からない、消える火災も消せない、要は手遅れになってしまう。そこで到着までの応急手当が最重要となる。

消防訓練と救急講習訓練を

1年おきに実施した。救急講習訓練は、消防署長より応急手当の重要性が説明され、救急隊による応急手当の訓練を実施した。人工呼吸の仕方、三角布によるケガ人の止血などを行った。

現在では、電気ショックによる「AED」が開発され取

新木場を見つめる

災害防止被害の拡大を防ぐ

ために、「新木場地域に消防署を造って下さい」と城東消防署へ陳情した。歴代の署長の申し送り事項にきちんと記録されており、時間の問題との思いであった。

私が理事長を退任した08年

(平成20年)、若洲地区に消防署設置決定と報道され念願がかなったと思ったが、予算不足で取りやめとなり長蛇を逸したことは、返すがえすも残念至極である。

◇ここでの教訓 これにめ

げず粘り強く陳情を。吉兼自衛消防団結成 悲願の新木場消防署の設置は予算不足のため取りやめとなったが、諦めず粘り強く交渉しなければならぬ。自分達のことは自分達で、吉兼

消防士の仕事

消防士の防火服は、何キロあるのだろうか。重い防火服に身を固めて消火作業をする。普通の人では動くのがやっただ。火の中に飛び込んで人命救助も含めての消火活動をする。時には生命が危険にさらされる。冬は、頭から放水で凍りつくようなこともある。夏はこの反対だ。活動が終わり帰省しても、勤務中はいつでも飛び出せるように着替えず待機しなければならぬ大変な仕事だ。現在の安心安全な生活は、このような人たちに支えられていることを忘れてはならない。

◇ここでの教訓 安心安全

は、一人ではできない。地域住民官民一体化で初めて得られるものだ。

消防訓練

9月1日、防災の日の直前に新木場野球グラウンドを開放し、組合員を集めて自衛消防訓練を実施した。放水の水源地はグラウンド北西角の地下にある貯水量100立方分の水槽だ。マンホールと直結し、常時補充体制は万全である。

訓練は、城東消防署、消防

三団体、防火管理研究会、防火協会、危険物管理協会、江東区の土木課などとの共催である。区からは起震車での地震体験、発煙筒による避難訓練だ。この訓練に「参加した防火管理者は、1年分の講習を受けたい」とみなして欲しい